
最高やで。

合格祈願者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
最高やで。

【Nコード】
N4081Q

【作者名】
合格祈願者

【あらすじ】
受験合格祈願小説です。

えっと、これは一時のコナンと平次の友情コメディです。
軽く平次の誕生日ネタってことになっております。

「おい服部――」

コナンは、たまたま遊びに来ていた（もちろんアポなし）服部平次に声をかける。

「お？なんや？」

「お前さ、あの――なんだっけ。」

「はあ？おい自分…そな、自ら話しかけといて忘れるなんてどんな悪い記憶力しとんねん」

そういつてコナンを見ると

「うつさいだまれポンコツ。今思い出してんだから黙って待ってけ」
「んな――っ！誰がポンコツやねん、ほんと口の悪いやつचना。頭くるわあ」

そんな切れる服部を無視してコナンはうねっている。

「あ、そうだそうだ」

「ああ？」

顔が引きつりながらも、コナンのほうに振り向く。

「ちょっと付き合ってよ」

につこりと少し不気味な（というか怖い）笑みを見せるコナンに、服部は怪訝な表情を浮かべる。

なんかあやしいと思いながらも、服部はコナンについて行った。

着いたところは、同じく事務所のコナンが寝室としている部屋だった。

「いやーさあ…俺としたことが、こんな大事なことを忘れてたとは思わなかった」

「だからなんやちゅうねん？」

パシッと物が投げ渡される。

「やるよ」

「は？」

「それ。やるっていつてんの」

改めて手に、投げ渡されたものを見てみるとそれは包装された正方形の箱だった。

「これくれるて…。なんでや？」

「…あ、やっぱお前忘れてんだ。お前、今日誕生日だろ」

「へっ？…じゃあこれ…」

「うん。誕プレ」

「~~~~~っ！くどーっ！まさかおまえがこんなくれんなんて嬉しいでー！」

「つつうるせえー（怒。蘭たちがいないから良かったものため人の隠し本名大声で晒してんじゃねえよっ！ー！」

「あ…すまん、（汗 つい、嬉しいて…」

そういう服部の照れ笑顔を見ながら、コナンはあやしくにやつく。

「じゃ、そんな嬉しいなら開けてみれば」

笑いを懸命にこらえて言い放つ。

「えっいいんか」

これだから馬鹿素直はおもしれえんだよな。

「うん。いいつつてんじゃん。早く開けろよ」

「工藤がそういうなら遠慮なく…」

びりびりと少しずつ包装紙を破り結構洒落たマグカップが入ってそうな大きさの箱を取り出す。

「ほら開けろって」

「おっっ」

そういつて、服部が箱をあける瞬間を俺は少したりとも見逃さないように目を凝らす。

そして開けた瞬間：
-

「バンツ!!!」

小さな小爆発とともにパンチが（おもちゃの）服部の顔面に直撃する。

「いだ!!!」

[illegible]

身体を折り腹を抑え涙が出るほど爆笑するコナン。

からうじて片手に箱を持ったまま、顔を抑える服部。

「はははははっ！……おまつ……はははははははっ！……！かつ、顔が
つ！！！！はははははっ」

もうついにはしゃがみ込んで、カーペットをダンダンとたたいて笑うコナン。

どうにも止まらないらしい。

「くっ……くど……。おま……なんちゅーことするねん……。っし
かもこれ、クッションやないし……」

「はっはははははっ、わりいっ…そこまで考えてなかったっははははは！でも中っ、ははっ中見てっ」

くう…と痛すぎて怒りにならん怒りをこらえながら、中を見てみる

「中て…何もないやないかコラ」

内心怒りMAXの服部は爆笑中のコナンを睨みつける

「ちっはははっちがっ…はははははっその中じゃなくてっ。そのパンチグロっははははっグローブのところにっ、あんだろっ開けるとこっははははっそこ、開けてっその中につくっふっはははははっ」

聞きにくい分の中から要点を絞り出して、それを繰り返す

「グローブんとこやとお？」

びよびよばねから伸びているかったい赤グローブを見ると確かに開きそうな所がある

「あ、これかい」

「そっ、はははははっ。そうゆっこっ…はははははっ」

「んー…ちょお開けにくいなあて…工藤いい加減その笑い止めろや…」

いまだに爆笑してるコナンに腹が立ち声をかける。

「ひーっわりっ、ははっ…はっははっ、はーっ、腹いてえ」

「自業自得やないかい…あほやな。おっ開いたでえ！」

そしてその中から出てきたものは…

「！時計やないか…。」

「んっ、ああ。ほら、おまえ、前電話したときに、事件がらみで時計壊れたっつてたろ？だから」

「ああ…覚えとつてくれたんや…。そら、おおきにな。」

なんだかんだで優しいところはちゃんとあるやつなんやって少し見直す。

「は、なんだ。お前案外簡単に機嫌直ったな」

笑いすぎて痛くなったお腹をさすりながら、服部に言う。

「そら、あれはちょお頭に來たけどなあ、でももらえたもんは嬉しかったし…」

「し…なんだよ？」

問うてくるコナンを見てニッと笑う。

「お前に、もらえて、俺、今、最高やで。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4081q/>

最高やで。

2011年1月28日03時44分発行